

長崎県に於ける糸状虫浸淫状況調査報告 (I)

長崎大学風土病研究所臨床部第二研究室

片峰大助・田村祐治・藤巻博教・山崎豊彦・有里実行
かたみねだいすけ たむらゆうじ ふじまきひろのり やまさきとよひこ ありさごさねゆき

緒 言

先に著者の一人片峰は山崎・吉田と共に最近の長崎県特に島嶼地方に於ける糸状虫浸淫状況を調査報告した。今回はその後昭和27・

28年度の長崎県に於ける調査報告を取まとめ報告する。

調査の方針方法は前報と同様である。

調 査 成 績

今回の調査地は北松の鷹島村、北高の戸石村、田結村及び五島列島の奈甬島(中学校生徒)、小値賀町の五ヶ町村で、地域別及び年

令別に見た調査成績は第1表、第2表に示す通りである。尙発見した仔虫はすべてバンクロフト糸状虫であつた。

第1表 地域別浸淫状況

地 域 別	調査人員	仔虫⊕	仔虫保有率	症状⊕	症状具有率	感染者	感 染 率
鷹 島	232	22	9.483±1.923	22	12.571±2.506	40	19.429±2.991
小 値 賀 町	776	63	8.119±0.981				
戸 石 村	857	63	7.351±0.892	55	6.418±0.837	110	12.835±1.142
田結村(池 下)	108	20	18.519±3.738	12	11.111±3.024	26	24.074±4.114
奈甬島(中学生)	229	18	7.860±1.778				

第2表 年齢別感染調査表

年 令	調査人員	仔虫⊕	仔虫保有率	症状具有者		症状具有率	感染者	感 染 率
				MF(+)	MF(-)			
1~9	21	1	4.762±4.647	0	0	0	1	4.762±4.647
10~19	591	34	5.753±0.958	0	1	0.169±0.167	35	5.922±0.971
20~29	202	29	14.356±1.007	4	16	9.905±2.102	45	22.277±2.928
30~39	96	10	10.417±3.118	2	5	7.292±2.654	15	15.625±3.702
40~49	108	14	13.019±3.238	5	21	24.074±4.114	35	32.407±4.157
50~59	69	8	11.594±3.854	5	19	34.783±5.734	27	39.130±5.875
60以上	35	3	8.571±4.732	2	9	31.429±7.847	12	34.286±6.692

戸石村の感染率は $12.835 \pm 1.142\%$ 、田結村池下部落の感染率は $24.074 \pm 4.114\%$ を示し、長崎市より 15km 内外のこれ等の土地にも尙この様に濃い浸淫の存在することが注目される。

一町村内に於ける浸淫の濃淡：多数の住民

又は殆ど全住民について採血を行つた戸石村、小値賀町の各部落別に見た成績は第3表・第4表に示す通りである。表に見る様に各部落の間には想像以上に浸淫度の濃淡があり、唯一ヶ所の調査のみで町村全体の浸淫の状況を推測することは出来ない。

第3表 戸石村部落別浸淫状況

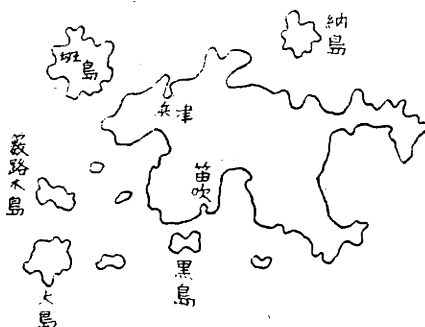
部落名	調査人員	仔虫 \oplus	仔虫保有率	症状 \oplus	症状具有率	感染者	感染率
上戸石	132	6	4.545 ± 1.813	0	0	6	4.545 ± 1.813
岡	203	9	4.433 ± 1.446	13	6.403 ± 1.718	18	8.867 ± 1.995
船津	167	11	6.587 ± 1.919	8	4.790 ± 1.654	18	10.778 ± 3.283
牧島	162	8	4.938 ± 1.702	22	13.580 ± 2.691	29	17.963 ± 3.016
川内	193	29	15.026 ± 2.572	12	6.218 ± 1.738	39	20.207 ± 2.890

第4表 小値賀町部落別浸淫状況

部落名	調査人員	仔虫保有者	仔虫保有率
竈路木島	98	23	23.469 ± 4.805
大島	185	19	10.270 ± 2.241
納島	172	16	9.302 ± 2.215
斑島	321	5	1.558 ± 0.690

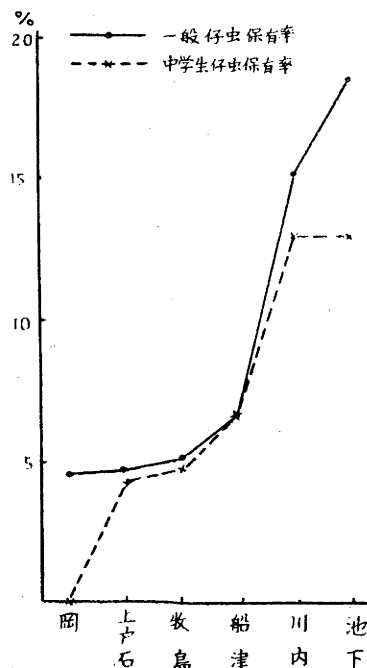
中学校生徒の仔虫保有率：以上の様に狭い一町村内に於いても各部落間の浸淫度に濃淡のあることは、既に森口も大江村の調査で同

第1圖 小値賀町略図



様に報告しているが、と云つて一村の浸淫度調査に於いて村民全体についての検血を行う

第2圖 戸石村・田結村に於ける中学生及び一般住民の部落別仔虫保有率



ことは容易でない。

町村の中学生は通常町村内の各部落出身者を網羅しているので、試みに戸石中学校、田結中学校の全員の検血を行い、出身部落別に一般住民の仔虫保有率と比較してみた。その成績は第2図に示す様に、一般住民の仔虫保有率の低い岡、上戸石部落では、出身中学生の仔虫保有率も低く、一般住民に於いて高い保有率を示す川内、池下部落では出身中学

生の保有率も又高くて、一般住民と出身中学生の仔虫保有率は凡そ平行している。

時間と労力及び調査費に制限をうけるこの種の調査に於いては、先ず中学生徒全員の検血を実施することにより、その町村全体の浸淫の概況を知ることが出来る。又この年齢層の仔虫保有者は感染後比較的新しいものであり、蔓延が今尙盛んに行われているかどうかを知る上にも便利である。

本研究は昭和27年・昭和28年度文部省科学研究費補助金の一部に依つたもので此処に記して謝意を表する。

文 献

1) 片峰, 山崎, 吉田 : 長崎県下灘島に於ける「フィラリア」浸淫状況とその臨床的観察。長崎医学会誌. 27 : (4) 185-194, 昭27.

2) 森口 義春 : パンクロフト糸状虫症の臨床的研究補遺(其の一 : 天草大江村に於ける糸状虫症について)。長崎医学会誌. 28 : (9) 946-971, 昭28.

(昭29.7.15 受付)